

軽井沢へ (2)庭にたたくむマリア像

この夏も炎天下の横浜をしばし逃れ、友人の北軽井沢の山荘に寄せていただきました。持参したウールのカーディガンを羽織って過ごすほど、涼しい数日間でした。私は本も2冊、持参していきまので、もっぱら山荘に籠って、本を読みたい気分が濃厚でした。けれども、やはり近場を散策する誘惑には勝てません。高原の静かな別荘地をぶらぶらして、のどかな時間も楽しみました。



すぐ近所に家が見えないほど木々や山野草に囲まれているお宅があります。お庭には見たことのない赤い花が群生していました。長靴をはいた奥様が出ていらして、「西洋〇〇センノウ」と名前を教えて下さったのですが、覚えきませんでした。これは珍しい外国種だということでした。花が少ない大自然で、真夏に華やかな赤色を見るのは心躍ります。その他にも、草花を大切に育てておられました。

ピンクのヤナギラン、山百合、ユウスゲがさわやかでした。ツバメオモトの青い実はとても珍しいもののようにも思えます。また、クルミの緑色の実を始めて見て、驚いてしまう自然音痴(?)の私です。



奥様がぜひ見てくださいとおっしゃられたので、藪を漕いで行くように、ずんずん進むと、1.5m くらいの高さの聖母アリアの石像がありました。美しい石像でした。すっかり苔むしたので、洗ってペンキを塗りたいのに、広い庭や生い茂る山野草の手入れに追われ、なかなか時間が取れないとのことでした。



この山荘の奥様はカトリック信徒です。東京のカトリック教会でイタリア人司祭の料理人をしておられたとのことですが、リタイアした時、教会で新品のマリア像を設置することになり、古いこの像を頂いて来たとのことでした。あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。(出エ20:4)と聖書は告げています。カトリック教会では神の像はありませんが、イエス・キリストは勿論、母マリアをも聖なる存在として、像を造り、崇敬の対象としています。像そのものを拜んでいるわけではなく、明瞭な信仰告白の形、日常生活の中で、目に見える信仰の拠り所として、傍らに置きたいのだと思います。山荘の奥様は高齢になつたし、教会も遠くて通えないと言われました。ご自宅にこの像があることによって、ご自身の信仰への励ましとされているのでしょう。

私が持参した本とはカトリック作家加賀乙彦著「高山右近」と司祭結城了悟著「キリシタンになった大名」の2冊です。漢字が苦手な、なかなか読み進まないのですが、日本人の心にどのように、キリストが呼びかけられたのか、探りたいと願って、持ってきたのです。マリア像に出会えて、私も嬉しかったです。